

- 第7期科学技術・イノベーション基本計画の柱として、「**戦略的科学技術外交の推進**」を位置付け。
- 進化版FOIPにおいては、重点分野①「AI・データ時代の経済基盤の構築」として、レアアース等重要鉱物やエネルギー・重要物資の供給多角化、AI・データ時代に不可欠なインフラの整備、イノベーション・エコシステムの構築が重視されているところ。
- 我が国においては、ASPIRE、NEXUS、LOTUSプログラムなどを通じて**G7諸国、ASEAN諸国やインドとの戦略的な連携・協力を推進**しているが、**オセアニアとはこれまで戦略的な連携が不十分**。
- 他国との連携・協力の推進にあたっては、**日本側の課題と相手国側の課題をマッチング**させることが重要。
- オーストラリアはネットゼロ、ニュージーランドはレジリエンス強化を重視していることも踏まえて今後の方向性を議論する。
- また、**AI for Science**については各国で戦略が整備され、国際連携も進められている中で、ASPIRE等の既存のアカデミアの連携の枠組みも活用して、協力の拡充を検討する。

① 政府方針を踏まえ、取り組むべき科学技術外交の方向性

- ✓ 国際協力プログラムにおいて制度的な空白となっている地域との協力を戦略的に進めてはどうか。

② 取り組む際に重要視すべき観点

- ✓ 各国と連携して「共に強く豊かに」なることを目指した進化版FOIPの考え方も踏まえて、相手国の国家戦略やニーズを踏まえつつ、地域共通の課題解決に向けた研究協力を進めてはどうか。

③ 推進に際して留意すべき事項

- ✓ 在外公館等との連携に加えて、科学コミュニティとの連携も重要であり、各国の科学技術顧問とのネットワーク等も活用してはどうか。